

富山県下新川郡朝日町から笹原靖直町長、水野仁士町議会議長も来町して水稲発祥の地碑前で、米作り120年目の東川米収穫記念祭(昨年9月8日、第二地区)



第3 人口確保と消費純増

地方創生においては人口の確保が大きな課題となっております。今年度も引き続き、人口確保のため核機能(キー機能)の充実を(キー機能)の充実を...

(1) キー機能の充実

以下に掲げるダム機能とハブ機能の調和を図るため、写真文化首都創生館II「大雪山ミュージアム(図書館機能を有する老若男女の複合交流施設)」をキー機能を持つ重要な施設と位置付けし、次の3つの文化に配慮した建設実現に向けて柔軟に対応できるように準備を進めます。

- ア. 写真文化
イ. 家具クラフトデザイン文化
ウ. 大雪山文化
(2) ダム機能の充実

人口減少を食い止めるためには、定住している住民が東川町に安心して暮らすことができる環境づくりが大切であります。環境づくりのための支援を行い、定住者の多世代好循環を目指します。

(3) ハブ機能の充実

ハブ機能は国内外から一時移住や観光振興などにより東川町に滞在する人々(以下、交流人口という)を確保できるように対策を講じ、交流人口の好循環と定住人口への移行を促します。



ゆめ公園開園田植え(昨年5月30日、ゆめ公園)

- イ. 家具デザインを学ぶ小さな塾(仮称)の開設
ウ. 移住など体験滞在の推進
エ. 観光振興のための情報発信
オ. 外国人留学生などと連携した情報発信の推進
(4) 地産地消等の推進
キー機能の充実、ダム機能及びハブ機能の調和を通じて、人々の動きが活性化される中で地場生産及び製造されるもの



中国・ハルビンから農業視察団来町(昨年9月1日)

第4 行政区の再編と共鳴する地域コミュニティ活動の充実

地域の高齢化が進行する中であって行政区の再編が大きな課題となってきましたが、今年4月から今までの行政区を廃止し、全町を5つの自治振興区に分割して地域住民がお互いに顔が見え、言葉をお話し共鳴する地域コミュニティ活動の充実を目指します。自治振興区内での地域実

情を把握し、相互に情報の共有化を図り、住民福祉の向上と地域振興の推進に努めます。また自治振興区ごとの地域振興計画を策定し、行政とパートナーの関係で連携を図り計画を実現します。

第5 国の制度を活用した人員配置の充実

国が定め支援する制度を最大限に活用し、本町の特異性を生かした活動を展開します。

- ア. 集落推進員の増員配置
イ. 定住支援員の配置
ウ. 地域おこし協力隊員の増員配置
エ. CIRの増員配置
オ. SEAの継続配置
カ. ALTの増員配置
キ. JETのコーディネーター配置
(注) JETは、(一財)自治体国際化協会、総務省、外務省、文部科学省などが実施している外国青年招致事業。CIR(国際交流員)、SEA(スポーツ国際交流員)、ALT(外国語指導助手)

第6 組織機構の見直しと再任用及び東川振興公社の役割強化

(1) 組織機構の見直しと再任用
(2) 東川振興公社の役割強化

地方版総合戦略の策定が終わり、さらに日本語学校が本格的にスタートすること、疾病予防と医療の一体的運営のための組織機構の見直しを



森林ウォーキング講習会(昨年5月13日)

再任用については条例によるものと町独自によるもの2本立てで継続します。

第7 適正な行財政運営

住民福祉向上のための投資的事業については、国や道等の補助金や起債に依存する構造には変わりはなく、有利な町債の確保に努めます。起債に当たっては過去の120年の記念事業を除き、プライマリーバランスが赤字とならないように配慮します。

第8 終わりに

本年度も過去に学びながら、決断する勇氣、改革する勇氣、挑戦する勇氣を失うことなく、チーム東川が一体となり、議会とも議論を深め、住民福祉向上のため前進させたいと思えます。住民はじめ、議会の皆さまの深いご理解をお願いします。



ミニバイアスロン大会(昨年7月6日、キトウシ森林公園)

平成28年3月10日
東川町長 松岡 市郎

タイ、台湾、中国、ブータンの学生が出演した日本語研修生文化交流祭り(昨年4月21日)

